

高齢者生活アンケート調査の実施結果について

平成12年の介護保険制度スタート時から3年ごとに作成している介護保険事業計画は、平成26年度をもって、現在第5期の計画期間が終了することになります。

新たな第6期（平成27年～29年）計画を策定するにあたって、高齢者のニーズを把握することが重要であることから、高齢者の方々にアンケートの調査票を送付させていただきました（要支援・要介護認定を受けている方を除きます。）。

このたび、多くのみなさまからご協力をいただき、その結果を取りまとめましたので、概要についてお知らせいたします。

●調査概要

(1) 調査目的

本調査は、介護保険と高齢者保健福祉に関する考えや主に生活機能の面から地域に在住する高齢者の生活状況を把握し、今後の高齢者保健福祉行政の推進と、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定に向けた基礎情報を得ることを目的として実施しました。

(2) 調査項目

国で示した調査票項目（8領域96項目）に独自設問を12問追加し実施

①家族・生活状況	13問	⑥日常生活	19問
②運動・閉じこもり	10問	⑦社会参加	15問
③転倒	5問	⑧健康	14問
④口腔・栄養	14問	⑨独自設問	12問
⑤物忘れ	6問	(介護予防・介護保険制度・福祉施策)	



(3) 調査対象及び調査方法等

調査対象	65歳以上（認定を受けていない方）全員
調査地域	町内全域
調査基準日	平成26年6月1日
調査期間	平成26年6月2日～6月13日（調査期間終了後到着分も集計）
実施方法	郵送による配付・回収（一部、保健師等による訪問回収）

(4) 回収結果

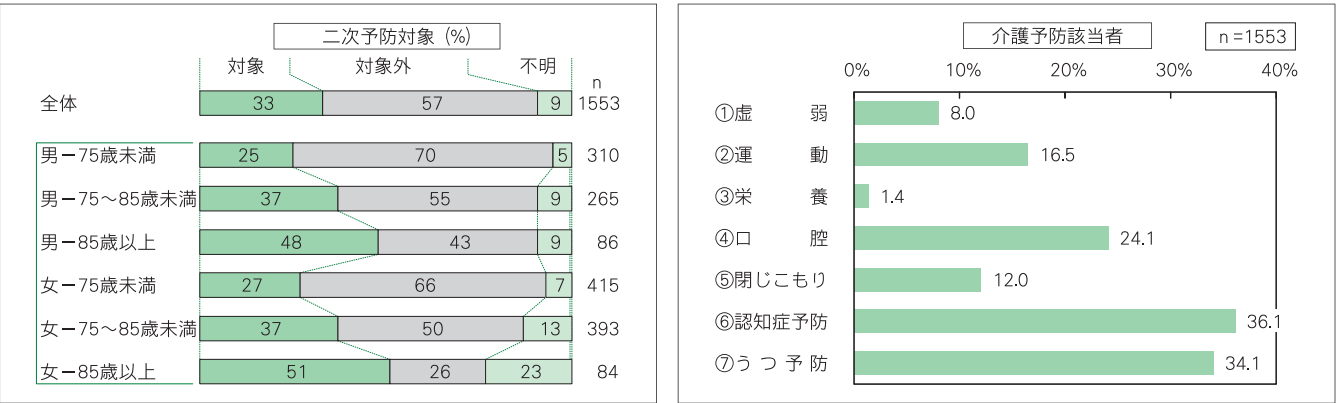
区 分		65歳以上（未認定者）
配付数	A	1,823
回収数		1,554
有効回収数	B	1,553
有効回収率	$B \div A \times 100$	85.2%

●結果概要

(1) 介護予防関係

今回の調査の主な目的の一つである介護予防事業（二次予防）の対象者は、『全体』では33%ですが、【85歳以上】になると、【男性】は48%、【女性】は51%と上昇します。

分野別にみると、認知症予防の該当者が36.1%と最も多く、次いでうつ予防の34.1%です。

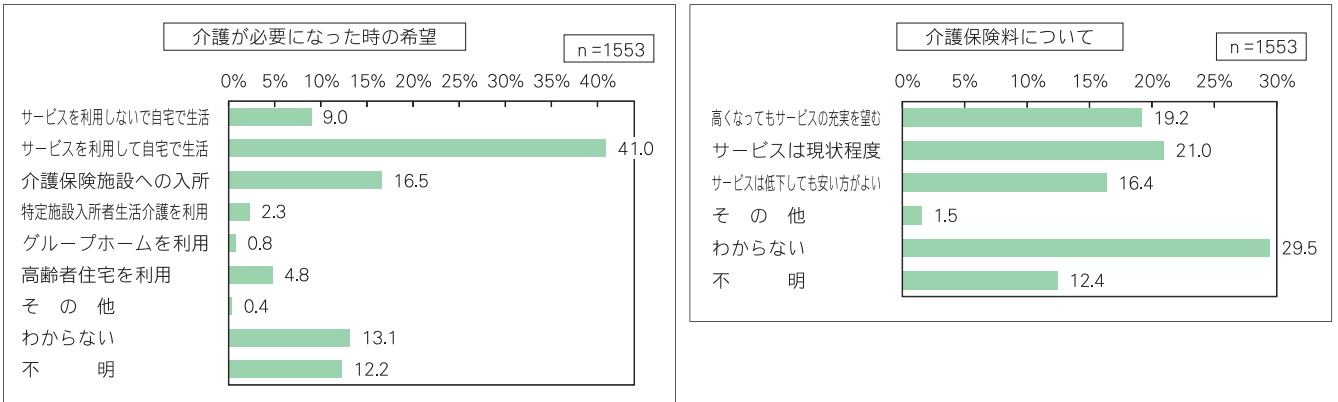


(2) 高齢者の生活環境関係

本調査では、介護や介助が必要になった時の暮らし方として、介護保険施設等への入所を考えている人は約25%、半数は自宅での生活を望み、その中の多くは、現在の住居に住み続けたいと考えています。

施設の充実には保険料の負担増という問題がありますが、「保険料が高くなっても、介護サービスの質と量を充実してほしい」との回答は19%で、「現状程度」と考える人の割合（21%）よりわずかながら低くなっています。

さらに、団塊の世代の高齢者の仲間入りにより、今後、高齢者の生活スタイルは多様化することが考えられます。



(3) 自由意見

自由意見として、次のとおり145件の記載がありました。

たくさんの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

①生活全般	22件	⑤町の高齢者福祉施策・介護保険制度	24件
②医療・病院・健康	21件	⑥地域・生きがい	15件
③介護・在宅福祉サービス	15件	⑦情報提供・相談	32件
④施設全般	16件		

●お問い合わせ

詳細を含む結果報告書は、町民健康課（役場1階）に備え付けておりますので、ご覧ください。

町民健康課健康福祉グループ（☎2-2453）

